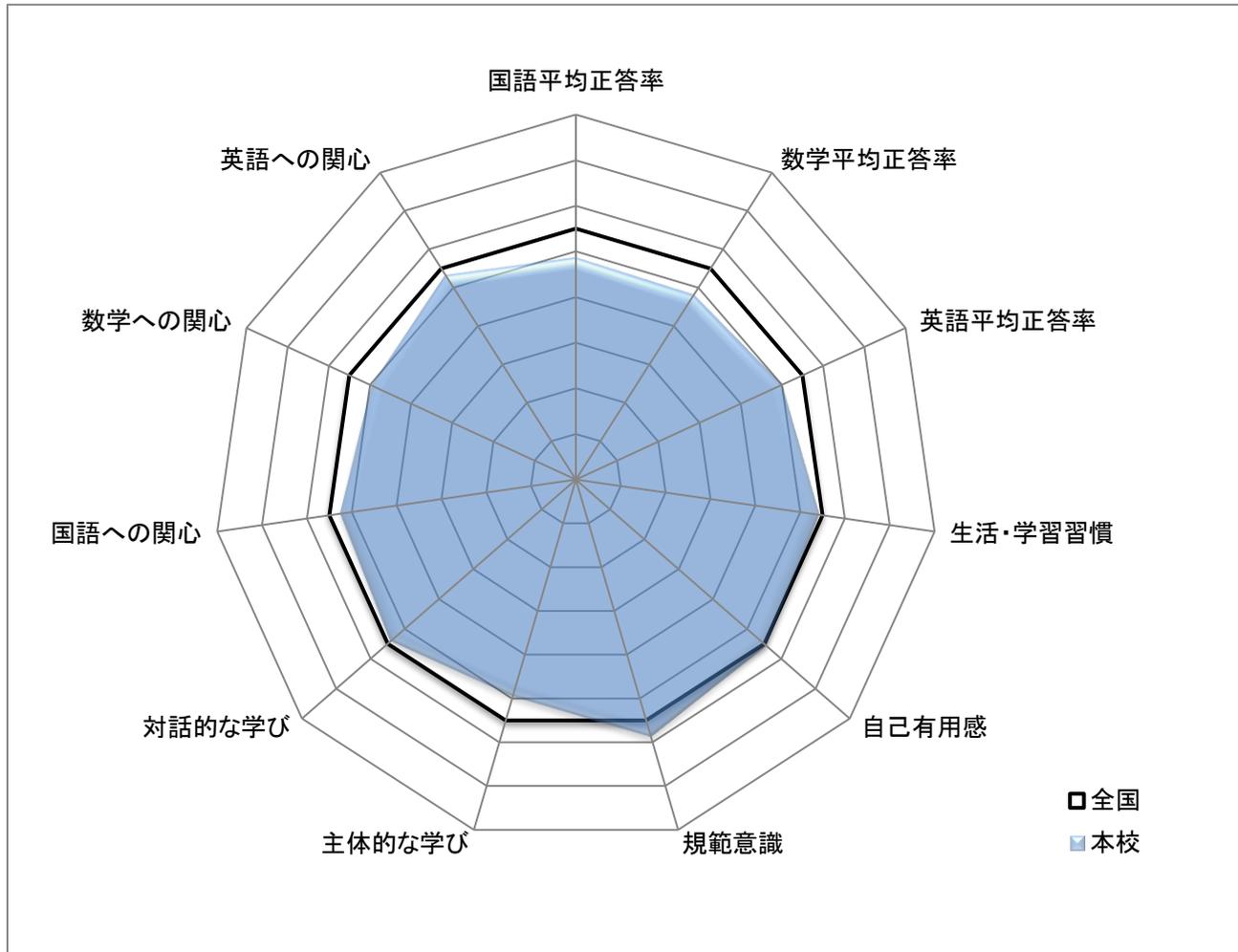


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

学力調査の結果から、国語、数学、英語とも基礎基本の定着が不十分であると分析できる。また、教科への意欲や主体的な学びに関して本校生徒は全国平均を下回る結果となったことから、学習への関心・意欲を高め、学習に取り組む姿勢を育て、学習時間を確保しつつ、学習の質を向上させる必要があると考えられる。

《授業改善のポイント》

【国語】漢字の読み書きの定着が不十分であった。日常の授業での漢字練習やテストの回数を増やし、漢字の学習を習慣化する。また、歴史的仮名遣いを含め、古典に関する知識が不十分であるので、今後の授業の中で知識の定着を図るために、ワークシートを活用し復習ができる内容に取り組みさせる。

【数学】数と式・図形など基礎基本が定着していないと正解を導くことができない。数学への関心も低いためタブレットをフル活用し生徒の興味・関心を高めるための授業改善を行うとともに、授業の中で反復練習を繰り返し行う。更に、個に応じた課題を与え家庭学習の定着を図る。

【英語】「読むこと」に関して、段落や話題の要点や概要を捉える授業を行い、思考力・判断力・表現力を高めていく。「聞くこと」「書くこと」の領域については「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の一体的な向上を目指す。

《チャートの特徴》

学習状況における調査では、自己有用感や生活・学習習慣、対話的な学びの設問では全国平均値とほぼ同等の結果が見られる。また、規範意識は全国平均を上回る結果となっている。一方で、教科への関心は3教科とも全国平均を下回り、数値的には全国平均を国語では8.8ポイント、数学では7.0ポイント、英語では4.6ポイント下回っている。それに呼応する形で学力調査では3教科とも正答率が全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習定着に向けて

- ①ミライシードを活用した家庭学習の実施
- ②個の能力に応じた宿題(課題)への取り組み
- ③各種コンテストに向けた家庭での取り組み
- ④学校だより・学年だより・保護者会を通じ、家庭での学習環境の整備や学習意欲の向上のため声掛けなどを呼び掛けていく。